

## 木造男神坐像 3 軀

### 木造男神坐像

もくぞうだんしんざぞう

### 分野／部門

有形文化財／美術工芸品〔彫刻〕

### 所有者

宗教法人 住吉大社(すみよしたいしゃ)

### 所在地

大阪市住吉区住吉 2

### 紹介



木造男神坐像

住吉大社は、住吉神をまつる神社として、広く信仰を集めている。祭神は、住吉三神と称される表筒男命(うわつつのおのみこと)、中筒男命(なかつつのおのみこと)、底筒男命(そこつつのおのみこと)の男神三神(だんしんさんしん)と、息長足姫命(神功皇后)(おきながたらしひめのみこと(じんぐうこうごう))である。このうち男神三神の神体としてまつられてきたという「古代神像(こだいしんぞう)」と称される神像 3 軀(く)が伝来している。像高はいずれも 20 cm 強で、内割り(うちぐり)のない一木造(いちぼくづくり)像、頭上に巾子冠(こじかん)を戴く束帯(そくたい)姿で、膝前部分を簡略化した、市域では希少な古様な神像である。制作年代は、1 軀は平安時代後期の 12 世紀代、残る 2 軀は鎌倉時代、13 世紀代と考えられる。

## 用語解説

**内割り(うちぐり)** 内部をくりぬき空洞にすること。

**一木造(いちぼくづくり)** 木像彫刻の一技法で、1 本の木から像全体または頭・胴体の中心部を丸彫りしてつくる方法。

**巾子冠(こじかん)** 官人が正装の際に着ける巾子を伴った冠。巾子とは冠の頂上後部に高く突き出ている部分。

**束帯(そくたい)** 平安時代以降の朝廷の男子の正服